様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３４６０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０４２０

研究課題名（和文）1980年代から30年の創作実践を経て構想される台湾原住民文学史構築のための研究

研究課題名（英文）Research for the construction of Taiwan's indigenous literary history through the writer's creation for 30 years from the 1980s.

研究代表者
下村　作次郎（SHIMOMURA, SAKUJIRO）

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：２０１４８６７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1980年代に誕生して30年を経過した台湾原住民文学の発展を、原住民作家の創作を通して考察し、台湾原住民文学史の構築のための研究を目的とした。具体的な成果は、『台湾近現代文学史』（共著）や原住民文学の翻訳書の出版、さらに論文「台湾原住民族文学の誕生」の発表や、「台湾文学史の構築から台湾原住民文学史の構築へ」、「窺見台湾原住民族文学史的建構」などの講演・報告で予期した成果をあげることができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to study the development of Taiwan's Indigenous literature which was born in the 1980s, through the indigenous writers' creation, and to study the construction of the history of Taiwan's indigenous literature. We were able to achieve the expected results, including the publication of" Taiwan's Modern Literary History" (co-authored), the translation and publication of the indigenous literature, the publication of the paper" The Birth of Taiwan's Indigenous Literature" and giving lectures" From the construction of Taiwan's Literary History to the construction of the Taiwan's Indigenous Literary History","The view of the construction of Taiwan's Indigenous Literary History" and so on.

研究分野：人文学

キーワード：台湾原住民族　台湾原住民文学　台湾文学史　台湾原住民文学史　シャマン・ラポガン　パタイ　16族　平埔族

１．研究開始当初の背景

（1）本研究は、下村作次郎が研究代表者として行った「近 30 年の台湾原住民族文学の発展と言語危機の中で作家たちがみすえる民族の未来像研究」（平成 23 年度～平成 25 年度、科学研究費補助金基礎研究（C））を継続・発展させて取り組んだものである。

代表者の下村は呉錦発編著『悲情の山地 台湾原住民小説選』（田畑書店、1992 年）の翻訳・出版に従事してより、連携研究者の魚住悦子は『抗日霧社事件の歴史』など、霧社事件三部作（日本機関紙出版センター、2000 年－2001 年）を翻訳・出版してより、台湾原住民文学研究の重要性を認識し、この間『台湾原住民文学選』（全 9 巻、草風館、2002 年－2009 年）などの企画・翻訳・出版を積極的に行い、研究成果を世に問うてきた。本研究はこうした研究の延長線上にある。

（2）本研究では、初年度は台湾原住民文学研究の上で欠かすことのできない平埔族への視点、および他者による原住民族表象を研究視角に収めるために重点的な研究を行った。一つは台中のパゼッヘ族の衰亡と現状の実態調査、およびパゼッヘ族の埔里への移住と埔里における平埔族間の関係の調査、さらに埔里の後山に位置するセデック族についての調査を行った。セデック族は霧社事件の当事者であり、清流（旧、川中島）に住むタクン・ワリス氏や郭明正氏をインフォーマントにさまざまな聞き取りを行った。

2 年目、3 年目は、埔里、台東、恒春半島、蘭嶼を中心にフィールド調査を行い、埔里では霧社事件と文学、台東と恒春半島では歴史小説の分野を開拓するプユマ族の作家パタイ、蘭嶼では海洋文学を創造するタオ族の作家シャマン・ラポガンを集中的に研究を進めた。その成果は「４．研究成果」に掲げた。

２．研究の目的

台湾原住民文学は誕生して 30 年、台湾ではすでにパスヤ・ポイツォヌ（浦忠成）氏によって大部な『台湾原住民文学綱』（上・下、里仁書局、2009 年）が書かれている。本研究は、こうした台湾での動向を踏まえ、日本とも関係の深い台湾原住民族の書写文学（Writing literature）を、日本人の視点から眺め、台湾原住民文学史の構築を目指すものである。

３．研究の方法

「１．研究開始当初の背景」で述べたように、本研究は『悲情の山地　台湾原住民小説選』や『抗日霧社事件の歴史』などの霧社事件三部作がその淵源であり、背景である。

その後、一貫した研究姿勢を確立する契機となったのは、『台湾原住民文学選』（9 巻）の出版である。文学選の出版後、引き続きこの分野の発展を期して、『台湾原住民族の現在』（共編、草風館、2005 年）を刊行した。さらに台湾内部の原住民族の文化や文学への関心の高まりに呼応するように、高一生研究会を組織し、会報『高一生（矢多一生）研究』（全 10 号、2005 年－2008 年）を創刊して、2008 年に「高一生（矢多一生）とその時代の台湾原住民族エリート－高一生生誕 100 周年記念国際シンポジウム－」を開催した。高一生は日本名を矢多一生、ツォウ族の民族名をウォグ・ヤタウユガナと言い、台南師範学校を卒業したエリートである。1954 年に白色テロの中で、冤罪で死刑に処せられた。さらにまた、2012 年には、原住民族音楽と文学の研究を合流させ「『台湾原住民族の音楽と文化』国際学術シンポジウム」を主宰した。この二つの国際シンポジウムの研究成果は、『台湾原住民族の音楽と文化』（草風館、2013 年）の形で世に問うた。

このほか原住民文学の翻訳書は、パタイ著（魚住悦子訳）『タマラカウ物語』（上・下、草風館、2012 年）、パァラバン ダナパン（孫大川）著（下村作次郎訳）『台湾エスニックマイノリティ文学論』（草風館、2012 年）、シャマン・ラポガン著（魚住悦子訳）『冷海深情―シャマン・ラポガンの海洋文学 1』（草風館、2014 年）、シャマン・ラポガン著（下村作次郎訳）『空の目―シャマン・ラポガンの海洋文学 2』（同前）を上梓した。

なお、本研究実施期間内に間に合わなかったが、シャマン・ラポガン著（下村作次郎訳）『大海に生きる夢（大海浮夢）』は本年（2017 年）の出版が予定されている。原住民文学では最も長い 46 万邦字の長編小説である。さらに本研究の中でフィールド調査を実施した、シャマン・ラポガン著（魚住悦子訳）『ンガルミレンの死』とパタイ著（魚住悦子訳）『暗礁』については、前者は下訳が済み、後者は作品舞台の調査を終えている。

このように、本研究は作家と作品の解読、さらに作品世界の背景や民族の伝統と文化の理解を重視している。台湾原住民文学の研究に従事するようになってから心がけているのは、原住民作家との交流、作品の蒐集、作品の舞台調査、研究者との交流と文献資料の調査である。

幸い、原住民作家とは深い信頼関係を構築し、作品の舞台調査ではいつも作家自らの案内によって実現できている。さらに山海文化雑誌者の編集者との連絡も日常的に取れる環境にある。また台湾原住民族委員会の台湾原住民族図書資訊中心での資料蒐集も行ってきた。

本研究を通じて、台湾原住民作家、台湾原住民文学者・研究者、編集者、さらにその家族や原住民族部落の人びととの交流が実現できていることは、研究の成果をあげる上で大きな支えとなっている。

４．研究成果

本研究は、従来の研究蓄積を踏襲し、近年の原住民作家の活躍や台湾文化界の動向を見据えながら、毎年、霧社、台東、恒春半島、

蘭嶼を中心にフィールド調査を行った。

そうしたフィールド調査をもとに、代表者の下村は、この期間に講演や学会発表を 8 回ほど行い、台湾原住民文学史構築のための構想を充分に練ることができた。

連携研究者の魚住も、学会発表や学会動向、さらにシャマン・ラポガンとの対話や日本の作家高樹のぶ子氏との三者対談などを行い、台湾原住民文学の日本への紹介に大きな成果をあげることができた。

台湾原住民文学史の構築のために、本研究期間に翻訳することができた作品は次の通りである。

【既刊】

シャマン・ラポガン著／魚住悦子訳『冷海深情　シャマン・ラポガンの海洋文学 1』（2014 年）

シャマン・ラポガン著／下村作次郎訳『空の目　シャマン・ラポガンの海洋文学 2』（2014 年）

【出版予定】

シャマン・ラポガン著／下村作次郎訳『海に生きる夢（大海浮夢)』（2017 年 10 月）

パタイ著・魚住悦子訳『暗礁』（2018 年 10 月）

【未刊行】

シャマン・ラポガン著／魚住悦子訳『ンガルミレンの死』（未定）

本研究は従来の研究成果をもとに執筆された魚住悦子の「台湾原住民族文学の誕生－ペンをとった台湾原住民族」（『台湾近現代文学史』草風館、2014年）はじめ、佐藤春夫研究に関わる台日「文学と歌謠」国際シンポジウム（2016年、国立台湾文学館）での企画・報告、さらに本研究の延長線上の日本台湾学会での報告（魚住「19 世紀末の瑯嶠（恒春半島）を作家たちはどう書いたか―原住民作家パタイの[暗礁』『浪涛』を中心に―」2017年6月27日）と研究成果はその後の研究の発展を生みだしている。

上記の通り、本研究においても具体的な研究成果をあげることができた。台湾原住民文学は今後も着実に発展を遂げていくであろう。本研究の発展にいっそう取り組む必要がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①下村作次郎、海外文学研究者としてのチャレンジ―文学への共感・翻訳・共有―、外国語学科フォーラム講演会抄録（天理大学外国語学科編)、無査読、1 号、2017 年、13 頁－22 頁

②魚住悦子、（学会動向）日本における台湾原住民族文学研究―翻訳・研究の現状と展望―、無査読、『日本台湾学会ニューズレター』32 号、2017 年、16 頁－18 頁

③下村作次郎、日本における台湾原住民文学―果たして読まれているのだろうか？、無査読、『台語研究』8 巻 1 期、2016 年、82 頁－131 頁

〔学会発表〕（計 13 件）

①下村作次郎、（招待講演）なぜ文学なのか？―存在する台湾原住民文学―、2017 年 3 月 25 日、大阪日台交流協会

②魚住悦子／シャマン・ラポガン、（対談）台湾原住民作家が語る：島嶼での創作と思考、2016 年 7 月 8 日、台湾文化センター

③魚住悦子、（学会発表）原住民作家パタイは『八瑤湾琉球人遭難事件』をどう描いたか、台日「文学と歌謠」国際シンポジウム、2016 年 6 月 4 日、国立台湾文学館

④下村作次郎、（学会発表）窺見台灣原住民族文學史的建構、“臺灣原住民族群關係的歷史、現狀與未來”國際學術研討會、2016 年 4 月 30 日、廈門大学人類学研究中心

⑤下村作次郎、（講演）大正文學、佐藤春夫與台灣：先行研究一瞥、2016 年 3 月 18 日、国立台湾文学館

⑥下村作次郎、（講演）「福爾摩沙」再考：日本近代文藝思想與臺灣藝術研究會、2016 年 3 月 17 日、国立台湾文学館

⑦下村作次郎、（講演）「福爾摩沙」再考：日本近代文藝思想與臺灣藝術研究會、2016 年 3 月 16 日、国立中山大学文学院

⑧下村作次郎、（講演）在日本的台灣原住民文學―日本讀者讀了嗎？―、2016 年 11 月 8 日、国立台湾文学館

⑨魚住悦子、（研究会報告）「台湾原住民文学の誕生」、2015 年度第一回研究会、2015 年 7 月 11 日、日本順益台湾原住民研究会

⑨下村作次郎、（講演）從台灣文學史的建構到台灣原住民族文學史的建構―透過我體驗的相遇―、慈済大学東方言語学科「姉妹校學者遠朋講座」、2015 年 5 月 4 日－5 日、慈済大学東方語文学系

⑩下村作次郎、（講演）管見·五四退潮期活躍的魯迅門生的來台―觸及我的一點台灣體驗―、2015 年 5 月 3 日、2015 東方文化國際學術研討會「五四精神在東亞的發展與變遷暨跨文化研究」、慈済大学東方語文学系

⑪下村作次郎、（基調講演）佐藤春夫の台湾－日月潭と霧社で出会ったサオ族とセデック族のいま－、佐藤春夫没後 50 年国際シンポジウム「佐藤春夫と憧憬の地 中国・台湾」展に寄せて、2015 年 1 月 31 日、新宮市立佐藤春夫記念館

⑫下村作次郎、（講演）海外文学研究者とし

てのチャレンジ―文学への共感・翻訳・共有―、第二回外国語学科フォーラム、2015 年 1 月 23 日、天理大学
⑬下村作次郎、（講演）台湾エスニックマイノリティーのいま―台湾原住民族と平埔族―、第 73 回企画展「台湾平埔族のものがたり―歴史の流れと生活文化の記憶―」、2014 年 11 月 16 日、天理大学附属天理参考館

〔図書〕（計 6 件）（翻訳書含む）
①下村作次郎、佐藤春夫の台湾―日月潭と霧社で出会ったサオ族とセデック族のいま―、佐藤春夫記念館、『むささびブックス④　佐藤春夫没後 50 年国際シンポジウム　「佐藤春夫と〈憧憬の地〉中国・台湾」展に寄せて』、2016 年、12 頁－33 頁
②下村作次郎訳・陳芳明著、東方書店、『台湾新文学史』（上）、2015 年、全 454 頁
③下村作次郎訳・陳芳明著、東方書店、『台湾新文学史』（上）、2015 年、全 555 頁
④下村作次郎訳・シャマン・ラポガン著、草風館、『空の目　シャマン・ラポガンの海洋文学２』、2014 年 12 月、全 245 頁
⑤魚住悦子訳・シャマン・ラポガン著、草風館、『冷海深情　シャマン・ラポガンの海洋文学１』、2014 年 12 月、全 245 頁
⑥下村作次郎ほか編著、研文出版、台湾近現代文学史、2014 年 5 月、全 536 頁

〔その他〕（計 6 件）
①魚住悦子訳、河出書房新社、「東京のお姉さん」、『津島佑子』、2017 年、50 頁－53 頁
②魚住悦子、『毎日新聞』、「昨日読んだ文庫」、2016 年 10 月 23 日、1 頁
③魚住悦子訳、『スバル』６月号、「東京のお姉さん」、2016 年、178 頁～181 頁
④下村作次郎、図書新聞、書評：佐藤春夫の「根も葉もある嘘八百」の世界へ誘う―豊富な文献資料と豪勢な執筆陣を擁した入門書、2016 年 2 月 27 日、1 頁
⑤下村作次郎、佐藤春夫「台灣作品群」的研究與翻譯、佐藤春夫著・邱若山訳『殖民地之旅』、前衛出版社、2016 年 11 月、8 頁～15 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
下村　作次郎（SHIMOMURA SAKUJIRO）
天理大学・国際学部・教授
研究者番号：20148670
(2)連携研究者
魚住　悦子（UOZUMI ETSUKO）
天理大学・国際学部・非常勤講師
研究者番号：20465686